

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 橋本正巳
新潟県山岳協会
上越市南城町2-3-37
TEL 025-524-7215

事務局 諏訪恵一
長岡市高畑町610-10
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
委員会代表 浅野亘寛
TEL 0258-52-3998

第27回北信越国体開催される

成年少年女子5年連続1位獲得 女子も1位、成年男子と共に 兵庫国体出場へ

7月29日(土)・30日(日)の2日間、長野県で第27回北信越国体が開催されました。クライミング競技の会場は、上伊那郡宮田村の水と森のアウトドア体験広場です。縦走会場は、駒ヶ根市の駒が池広場がスタート地点です。両会場とも高速中央道の駒ヶ根インターを降りて左折し、道なり直進で10分足らずの距離です。

パターンのある強化プラスチック製のパネル、12m以上の壁は中程上部に可動装置があった。その両側は自然石に似せてつくられたコンクリートの壁で、ボルダリングを楽しむことが出来る。今回は常設壁の右側に張り出すように、鉄パイプと合板パネルで臨時の人工壁が設置してあった。女子のルートは特設の壁に、男子のルートは常設部分にあった。競技開始に先立って、少年男女一緒のオブザーベーションが始まった。その時間は6分間。男子に対して、壁に貼られた黒テープの説明をするルートセッターの声が流れてくる。テープを越えて少しで靴が壁に触れたら競技は中止される。テープ自体は、壁に直線に貼られてはいない。壁の中間部分では、大きく右側に膨らんで貼ってある。また、3分の1くらいの高さの部分にカンテがある。傾斜角度の異なるパネルをつないだ結果、横に段差が出来た。その陰の部分にホールドが1個付いている。ルートは自然と右側に回り、黒テープのバウンダリーに近づいてから左側に横断して、再び右側に設置された最終ホールドに達するようにつくられている。ホールドを下から順に目で追っていくと蛇行具合がよく分かる。女子のルートは、ホールドが緩やかに蛇行していた。男女同時進行で競技が始まった。

塚本菜々香選手、 クライミング2位

先に登った小林祐佳選手は、クロスカントリースキーが専門で、今回の出場が決まってからクライミング体験3回程で大会に出場したことになる。垂直な壁でトップロープとリードクライミングの練習をしたが、傾斜角度のある壁でのリード練習はしていない。塚本菜々香選手は、大会直前に彼女の右膝のレントゲン写真を見た整形外科医から、「骨がすっかり完成しています。あなたはまだ身長がのびませんよ」と宣言されて、精神的にもすごく落ち込んで大会を迎えた。パネルの傾斜が一段とぎつくなつた部分に達して、両腕の筋肉が完全に硬直してしまい、動きも止まり、競技が終了した。チーム成績は2位を獲得した。

男子の山口匠選手も、女子の小林選手と状況はほとんど同じであった。陸上の中・長距離専門で、縦走競技とクライミング競技にも出るようになった。傾斜角度の緩い壁で、半日リード練習した経験しかない。クライミングは面白いと言って運動神経の良さを見

せていたから、もうひと月程時間に余裕があれば、もっと高く登ったであろう。完登者のいないまま競技が進行して、桐山元幹選手が登場し、ゆっくりと登り始めた。前述のカンテ部分に差しかかった。他県の選手はカンテの陰をのぞき込んで、そのホールドに手を伸ばした。しかし彼は、カンテ部分に目を向けようともしない。オブザーベーションの際の黒テープバウンダリーの説明も聞き流していたらしい。あくまでも頭上のホールドに手を伸ばし、それをつかめないままあっさり落ちてしまった。順位は出場者8名中、7位と8位で、チームとしては最下位の4位であった。

春日未奈選手、 片桐麻由子選手 完登して クライミング1位

ホールドの一部付け替えが終わって、先に春日未奈選手が登場した。ここまで完登者は出ていない。最終ホールドに手を伸ばす選手がいなくて観客席からは、ため息が漏れていた。春日選手がゆっくりと登り始めた。過去の大会で

第27回 北信越国民体育大会山岳競技 個人成績表

種別	県名	縦走競技 (T)				クライミング競技 (C)			
		ゼッケン番号	個人順位	ゼッケン番号	個人順位	ゼッケン番号	個人順位	ゼッケン番号	個人順位
成年女子	新潟	16-1	8	16-3	4	16-1	1	16-2	1
	長野	17-1	7	17-3	5	17-1	5	17-2	4
	富山	棄権		棄権		棄権		棄権	
	石川	19-1	6	19-2	1	19-1	1	19-3	8
	福井	20-2	2	20-3	3	20-1	7	20-2	6
少年男子	新潟	16-5	4	16-6	1	16-4	7	16-5	8
	長野	17-4	8	17-5	3	17-4	2	17-6	3
	富山	18-5	5	18-6	2	18-4	1	18-5	6
	石川	棄権		棄権		棄権		棄権	
	福井	20-4	6	20-5	7	20-4	4	20-6	5
少年女子	新潟	16-8	1	16-9	2	16-7	2	16-8	5
	長野	17-8	4	17-9	5	17-7	3	17-8	5
	富山	18-7	6	18-9	3	18-7	4	18-8	1
	石川	棄権		棄権		棄権		棄権	
	福井	棄権		棄権		棄権		棄権	
成年男子	新潟	16-11	4	16-13	8	16-12	3	16-13	7
	長野	17-11	1	17-13	3	17-12	1	17-13	8
	富山	棄権		棄権		棄権		棄権	
	石川	19-11	5	19-12	6	19-11	6	19-13	4
	福井	20-11	7	20-13	2	20-11	5	20-13	2

も完登場面を見せてくれてい
る。危なげなく登って、最後
のホールドをつかんで金具に
ロープを掛けた。大きな拍手
が湧いた。大会最初の完登者
である。完登者が出ると、競
技場の雰囲気が変わると盛
り上がってくる。その後、石
川県成年女子選手が完登した。
最後に登場した片桐選手には、
3人目の完登者の期待がかかっ
ていた。登り始めたときから
大歓声があがった。何と言っ
ても動きが速い。小柄な体つ

きの片桐選手のつま先がホー
ルドにかかると、すぐに上体
を起こして腕を精一杯伸ばす。
そしてつぎのホールドをつか
む。その一連の動きにリズム
が感じられて、周囲から完登
期待の声が続いてくる。ホー
ルドを4個残したあたりから
は大きな歓声に変わった。金
具にロープをかけ終わったと
きは、大きな拍手の中であつ
た。春日・片桐の両選手にとつ
て今回設定のルートグレード
5-11cは、物足りなかった

であろう。チームとしても文
句なしに1位獲得。
成年男子今井浩二選手の競
技開始の案内は、片桐選手の
コールと同時に行われた。登
り始めたのも同時であった。
私の隣でカメラを構えていた
諏訪事務局長も、最初は両方
の壁に均等にレンズを向けて
いた。しかし、全観衆が片桐
選手に注目し始めると、霧田
の方にばかり向いてしまった。
あわてて男子ルートに顔を移
すと、今井選手はすでに地面
に立っていた。ハーネスに結
んだロープを解いていたから、
今少し前に競技を終えて着地
したらしい。どこまで登って
どのホールドで下りてしまっ
たのかは見逃してしまった。
山田真史選手も大会出場が決
まったのが、大会20日くらい
前か。若さで今井選手を上回
る成績をあげたが、練習不足
で不満の残る結果に終わった。
チーム成績は3位、個人は3
位と8位であった。

キー場から空木岳池山尾根の
登山道に入る。公表された標
高差は525m、コース距離
は約3、100mであった。
登山道に入ってから、標高
差に見合うように勾配のきつ
くて狭い、丸太で階段状になっ
た道が続く。8時丁度に、男
子がスタートした。5分後に
女子がスタートした。

田中諒兵選手縦走1位

男子選手が次々とゴールに
入り、そのゼッケン番号が電
波で送られてくる。新潟県の
県番号は16である。番号17長
野県成年男子が30分6秒でゴ
ールした。次いで7秒差で、田
中諒兵選手16-16がゴールに
入った。田中選手は全体の2
番、少年の1位と分かった。
山口匠選手は少年の4位、村
山亮選手は成年の4位、同じ
く今井浩二選手は成年の8位
であった。チームとして少年
は1位、成年は4位である。

成年女子は4県とも1位

表彰式直前にチーム成績が
貼り出された。成年女子は富
山県不参加。クライミング
順位と縦走順位の数字加算し
たら、4チームともその和は
5になった。総合順位は4チ
ームとも1位である。表彰式で
はそのように賞状が授与され
た。兵庫国体出場の代表権は
ひとつしかない。それを決め
るにはクライミングチーム順
位と縦走チーム順位の数字を
かけ算する。長野県と石川県
は2×3で積が6になる。新
潟県と福井県は1×4で積は
4である。数字は小さい方が
上位となる。長野県と石川県
の権利は消えた。さらに、新
潟県と福井県競技出場4選手
の個人順位を合算して比較す
る。新潟県は14、福井県は18
である。かくして代表権が新
潟県チームに転がり込んでき
た。(記 渡邊 正之)

大会2日目、縦走競技

縦走競技は、駒が池脇の広
場をスタートして舗装道路を
駒ヶ根スキー場に向かう。途
中大沼の周囲を半周する。ス

小林祐佳選手1位、
瀧澤三咲子選手2位で
ゴール

石川県の成年女子選手が1

日本山岳協会主催

平成18年度

遭難対策委員会研修会

兼総会参加報告

『ビルワークから学ぶロープワーク』

遭難対策委員会副委員長 金子恒夫

6月24日～25日に遭難対策委員会が開かれ、出席できない榎井委員長に代わり出席してきた。

24日に「ビルワークから学ぶロープワーク」が横浜で行われる事になっており、始発の新幹線でも間に合わないため前日夜に発売した。

ジムが11時に始まり、一般客が来るとのことです8時半開始。

榎井委員長からは見てるだけだからといわれ、ハーネス等をもっていかなかったが、皆登攀具を用意していたため一式を借りた。

まず、新入社員に対しロープワークを教える際には、完全にマニュアル化されており、右手で作業を行い、左手はロープを持つだけにしている。これは左利きの場合でも同じで、フィギュアエイトノットの結び

方を習う。その他の結束法もFTG（検索すると出てくるが、只今工事中）のホームページで確認できるそうだ。

各山岳会や県山協などでも講習会を行っていると思うが、教える人により結束法はバラバラになっているため、マニュアル化し、同一方法での講習の必然性を痛感した。

次に道具の説明。ハーネスやカラビナ等馴染みのギアではあるがカラビナは全てロック式のものを使用する。これはロープからの離脱を防ぐのは勿論であるが、ゲートが開いた状態ではカラビナの強度が極端に下がるため、これを防ぐ意味合いも大きいという。

オートロック式のカラビナが多いが、スクリューロック式のカラビナも、ロックされていないと赤い表示が見えるため、閉め忘れを目で確認できる。

ハーネスもレッグループ式ではあるがサスペンダー風にして、フルボディハーネスとなる。テープ幅があり、ギア

ループに当るものが金属製で前に2カ所、背中に1ヶ所設けられている。まずアイディ

プを使ってロープを登る。初心者に對し、いきなり懸垂下降から行うより自ら登ってからの懸垂下降が恐怖心を感じにくいためだ。アイディとはグ

リグリにパニック防止機能がついている産業用といった感じで、ロープのセッティングが反対だとロックして動かないようになってい

る。アッセンションにアプミを取り付け開始。バックアップにはアサップを使用する。これが優れものでローラー式のストッパー

は下降速度が上がったり、衝撃加重が掛かるとロックし登高時でも下降時でも着けっぱなし対応できる。登山用ではなく大きくて重いものだが、訓練などに取り入れられれば安全性はアップするのではないだろうか。アイディでの下降は少々コツがある。レバーを引くとロックが解除され下降できるのだが、引きすぎるとロックされる。これはパニックになったときには、レバー

を引いてしまふ場合が多いため、レバーを戻すことにより解除できる。

次にレスキュー。セルフジャミングプリーを使用し1/2システムで引き上げ、レスキュー開始。アイディでロープを登り事故者の上に出る。事故者を足で挟んで固定しアイディと連結。1、5mのテ

プスリングを事故者と連結し、アッセンションのカラビナで折り返しスリングに体重をかけ、事故者のテンションを解除しアイディに移す。このときテンションを解除するまで、

体重を抜かないように作業を行う。事故者のプリーを外し、アッセンションを開放して下降。グリグリだと2人分の

体重が掛かるとレバーが重くなり破損の危険もあるそうだが、アイディでは1人での下降と同じように懸垂ができた。山では事故者のテンションを解除する場合ロープの切断を行うが、テンションの解除の仕方はそのほかの場合でも使えるので、覚えていて損は無いように感じた。

11時になると一般客が集まり始めたため終了。登山用と違い、産業用のギアにはヒューマンエラーの発生を前提にしており、それをいかに回避するかに重点が置かれている。ビルワークで使用するギアは全てベッルを使用しているが、アイディとア

ップは産業用ということで、登山用品店では入手できない場合が多いという。今回紹介したギアはベッルのHPのワークソリューションで紹介されているので、そこで確認できる。直接登山に影響を与える事は無いかもしれないが、違う視点から見ることができ大いに刺激になった。これからもこのような機会を有意義に利用していきたい。

海外・国内旅行、主催・手配

JUMPING TOUR

ユニオン航空サービス

東武交通大正会館協賛第553号 JATA代理店 (社) 日本旅行業協会
本社 新潟県長岡市東町1丁目3番5号

http://www.uks.co.jp

☎ (0258)333-7123
☎ (025)246-2266

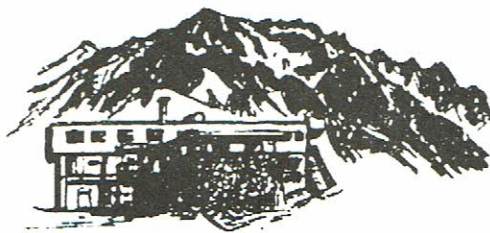
☎ 0240-0064 長岡市東町1丁目3番5号

☎ 025-246-2266 新潟市東区長岡3丁目2番11号

☎ 025-246-2266 新潟市東区長岡3丁目2番11号

☎ 025-246-2266 新潟市東区長岡3丁目2番11号

お知らせ



平成18年度 山岳遭難救助研修会B 開催要項

◇趣旨 山岳遭難救助活動の指導的立場にある者および山岳会等、各種登山リーダーの参加を求め、遭難救助に関する知識と実技、救助活動の構成法について研修を行い、遭難現場の人員、装備の状況に応じた、現場での即応力および指導者として

の資質の向上をはかる。

◇主催 文部科学省

◇協力 (社)日本山岳協会

富山県警察本部山岳警備隊

◇期日

平成18年11月1日(水)～

11月5日(日)

◇会場 文部科学省登山研修所及び研修所周辺山域(材木坂、藤谷)、雑穀谷岩場、称名滝周辺

◇応募資格

ア 山岳会(クラブ)の代表者が推薦する者。

イ 太学山岳部等のリーダー及びリーダー候補者で、

学長が推薦する、部活動が1年を超える者。

ウ 大学の山岳関係クラブを指導する者。

エ 都道府県における民間山岳遭難救助組織の指導的立場にある者。

オ 都道府県・市区町村教育委員会事務局における登山担当者及び地域・職域において登山を指導している者。

カ 高等学校、高等専門学校等で登山を指導している教職員。

◇募集定員 40名

◇講師 文部科学省登山研修

所登山指導員。

◇参加申し込み方法

参加希望者は所属山岳会(クラブ)を通じ、必要書類を取り揃えの上、新潟県山岳協会遭難対策委員会へ申込、お願いいたします。

〒950-0232

新潟市吉田東栄町32-13

遭難対策委員会委員長

榎井利幸

0256-92-3168

◇申し込み締め切り

(登山研修所着)

平成18年9月29日(金)

賛助会費のお願い

新山協ニュース22号掲載の内容にて、賛助会員を募集しております。

4月評議員会議事に申しました今年の目標達成が、皆様のご支援のお蔭をもちまして、もう少しというところでございます。各位におかれましては、より一層のご理解と趣旨ご賛同の上多数のご入会をお願い申し上げます。ご入金され、ご協力頂いた方々ありが

とうございました。

記

新潟県山岳協会事業

1 国民体育大会山岳競技に関する事項

2 県体育協会登山部門に関する事項

3 日本山岳協会に関する事項

4 登山施設の改善促進及び技術指導に関する事項

5 遭難対策に関する事項

6 加盟団体の主管する事業に対する相互協力に関する事項

7 その他本会の目的達成に必要な事項

◆賛助会費

年額 10,000円

◆賛助会費の振り込み先口座

☆郵便振替 新潟県山岳協会

☆口座番号 006501812040

☆銀行口座の場合

第四銀行長岡市役所前支店

☆普通預金 1179492

名義は新潟県山岳協会

会長 橋本 正巳

理事長 片桐 一夫

総務委員長 七沢恭四郎

登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025) 243-6330(代)

登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー



パーマーク
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL.0258(37)1200-FAX.0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>